

うちの図書館 お宝紹介!

第44回
静岡大学附属図書館



地域・特別資料室収蔵の 三つのコレクションについて

塚本雅美

静岡大学附属図書館の地域・特別資料室には、静岡県内関係の地域に関する資料と、コレクションとしてまとめた資料が収蔵されています。いわゆる文化財級のお宝があるというわけではありませんが、地域研究等関連分野の研究者にとっては重要な資料です。このうちの「河井文庫」,「原家旧蔵江戸後期芸文資料コレクション」,「井通学校文書」の三つのコレクションとその中の資料のいくつかをご紹介します。

河井文庫 (明治・大正期新聞コレクション)

日本の新聞の歴史について書かれた文献によると、明治初期から昭和16(1941)年新聞事業令等により新聞が統制されるまで、特に明治期の新聞は実にさまざまなものが発刊し廃刊しています。これらの新聞は、歴史的な生の資料として貴重なものですが、中央の有力誌を除くと完全な揃いとして保存されているものは意外と少ないようです。特に地方の新聞はその地域の研究者や郷土史家による発見や研究が行われてきていますが、日々発行されて読み捨てられる新聞の性格から収集・保存には難しい面があります。

ご紹介する新聞コレクションは、河井家に所蔵されていた明治から昭和までの新聞を昭和32(1957)年に当主である河井重友氏のご好意により本学にご寄贈いただいたものです。河井家はむかしから遠州掛川在の有力者で、その付近の村人のために早くから種々の新聞を購読・回覧し、その後大切に保存してきたとのこと。これらの新聞は、明治10(1877)年前後の『朝野新聞』,『東京曙新聞』,『静岡新聞』などから始まり、中央誌、地方紙を含めて約30種にわたっています。特に静

岡地方の新聞は、まとめて所蔵する図書館は少なく貴重な収蔵資料となりました。また、公的な図書館等で所蔵していた新聞の欠号を埋めるものとしても重要な役割を果たすこととなりました。当館でのみ所蔵する原紙をみると、『静岡大務新聞』明治24年,『静岡民友新聞』明治30年代,『静岡新報』明治31-37年,『静岡公報』明治40年,『静岡朝報』明治41-45年などがあります(いずれも、他の図書館との若干の重複、欠号があります)。

現在では、県下で発行された新聞について所蔵する図書館の協力でマイクロフィルム化されており、県内図書館でも利用できる場所が多くなっています。なお、当館では収蔵リストとして『河井家寄贈新聞目録』(1975年刊)を作成しています。

原家旧蔵江戸後期芸文資料コレクション

このコレクションは、駿河国駿東郡大平村(現在静岡県沼津市)の名主を務めた旧家である原家に代々伝来されてきた和装本コレクションで、その収蔵内容は『原家旧蔵江戸後期芸文資料目録』(静岡大学附属図書館, 1988年刊)にまとめられていま



▲『静岡民友新聞』の題字

す。

この資料は、江戸後期を中心に明治初期に及ぶ全451点1,281冊からなり、俳諧書を中心に、歌書、戯作類、絵画、地誌、仏教書、国学関係書、そして自然科学書をも含む広範囲にわたっています。収蔵資料には原家の人々による写本も多く見受けられ、全451点のうち、35点が原家の人々12名(同名異人と思われるものを含む)による写本で、寛政12(1800)年から嘉永7(1854)年の約55年間に書写されたものです。『実語教・童子教』、『さんぼうてんさんしよかくしやう算法点竄初学抄』といった教科書類、『東海道駅路の鈴』、『漂流奇談』等の紀行・地誌・冒険譚、『東海道中膝栗毛』、『真書太閤記』などをはじめとする小説・戯作など広範囲にわたるものです。中でも『真書太閤記』は、原重株一知喜一重久の3名によって丁寧な筆致で書写された全122冊にもなる大部で長期にわたるものです。版本では、『北斎漫画』、『近世美少年録』、『椿説弓張月』など著名なものが含まれています。

このコレクションを総体としてみると、収集した人々が、書物を通じて世界を見ようとする知的好奇心のありさまを見ることができそうな気がします。

井通学校文書

「井通学校文書」は、明治30年代から昭和20年代までの井通学校に保管されていた実務的な教育およびその事務関連文書のコレクションです。井通



▲『真書太閤記』(写本)

学校文書については花井信教授(静岡大学教育学部)の「井通学校文書目録ならびに略解」(『静岡大学教育学部研究報告人文・社会科学編』36号(1985)p.141-156)に詳細な目録と解説があります。

井通学校は、現在の磐田市立豊田南小学校の

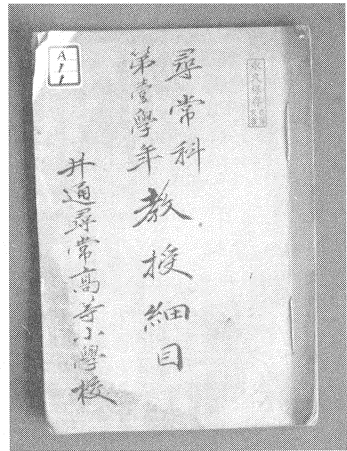
前身であり、その沿革等によると、明治6年(1873)年7月西之島村に西之島学校として設立、明治8(1875)年10月森下村に欧風三階建て校舎を新設し開校(見付学校・坊中学校とならんで遠州三大学校と呼ばれた)、明治22(1889)年4月井通学校と改称、さらに昭和30(1955)年4月豊田南小学校と改称と記されています。「井通学校文書」は、元静岡大学教育学部藤田忠男教授が収集され花井教授により目録作成後、附属図書館に収められたものです。

花井教授の分類に沿って列記すると、A：授業関係、B：学校経営関係、C：文書・通達類関係(1)、D：文書・通達類関係(2)、E：静岡県広報、F：教育会・校長会関係文書、G：戦時体制関係、H：青少年団関係、I：学事統計、J：進路関係、K：雑となっています。総数352点のうち7割の244点が教案(学習指導案)で“A：授業関係”に分類されているものです。

事務的文書ですが、それぞれの時代の教育実務に携わった教員や教育関係者の生の記録となっていて歴史の手触りが感じられます。

(つかもと まさみ：静岡大学附属図書館)

[NDC9：090 BSH：1.郷土資料 2.静岡大学附属図書館]



▲『尋常科・第壹学年教授細目』